

# コロナ肺炎「Shock」で {命の安全}が、最も 大事！次は地震対策だ！

南海トラフは32万人、首都直下型も数万人？ 何とかしないと・・・でもプロの地震学者達は予知できないと言う。それならとAmateurが知恵を結集して挑戦！突発の地震や噴火から命の安全を追求して25年「JYAN研＝市民科学団体」を主宰して12年、誰にもできなかった地震予知を、電磁的な観測で実現し、予見迄可能な技術を開発中、理論とメカニズムも各学会で発表済みです！

©突発の大災害はVolunteerの<DangerNews>で！会長(JH6ARA) 國廣秀光

# 命の安全を<確実にする>には 地震と噴火の予報が絶対必要！

- 交通事故は、前以て危険を避ければ、命の安全は守れます。
- 死亡率が高く、避けられないのが、突然の地震と噴火です！
- 南海トラフの巨大地震で32万人の方が亡くなるという。
- 次に、命の危険が高い直下型地震は、半年毎に起きている。
- （熊本地震、鳥取&島根地震、大阪地震、北海道地震etc）
- 現在、日本は、地震活動期に入っている明確な証拠なのです。
- 突発の自然災害は、逃げようが無い！から、最も危険です。
- 従って、予測が付かないから、本人や家族にとって最も必要！

# 地震予知は本当に困難？可能

- 阪神大震災から25年、この間、K庁は地震計を超高感度にし、地震警報迄発表しているが、間違いが多く、命の危険度が高い直下型地震は、揺れ始めてから、後に携帯警報が鳴り出す。
- GPS観測でも、表面の地殻移動は判るが予知情報の発表は無い。
- 海洋に地震観測網を広げてきたが、予知情報の発表は全く無い。  
**ところが「電磁気や電磁波を観測」すると・・・当JYAN研は**
- 地表で、電磁気や電磁波を観測し、地震の前兆を調べているが、検証結果では、多くの地震で明確な地震前兆を観測している。
- 地震計並に電磁的観測装置を置けば、確実な予報が可能となる。
- 電磁的観測の予知理論とメカニズムまで、学会で発表済みだ！

# 地震の予知や予見ができる「電磁的観測」の 革新的なく理論とメカニズム！

- 地震の元となる、地下深くで起きた地殻変動は、アインシュタインが言う「物が動けば電磁気が起きる」と言う理論を元に、地上で電磁気をうまく観測すれば、地下の様子が簡単に確実に判るようになりました。
- 実際に、地震の前には、地上の電磁気観測に異常変動が良く表れています。
- 例を挙げると、地震の約1週間前に異常な電磁波が観測され、1週間後には地震が起きています。異常の大きさ＝地震の大きさであり、相似形となっています。
- 地震のイメージが変わりますが、実は、地震源でズレや軋轢が起きると、同じよまうに電磁気も起きています。この電磁気は直ちに地表迄届き、異常が覚知できまのす。ところが、震源で起きた地殻のズレや軋轢等の力Powerは、押し競饅頭式の波動伝播しかできません。従ってパワーは1日に数kmしか伝われないのです。
- ところが、このズレ等の力Powerが地表付近まで届くと、周辺の岩盤圧が極端に減少するため、圧迫されてきた圧縮塊が、爆発的に膨張し、周囲の岩盤を破壊、地震動を起こして、断層迄作ります。＝これが地震動の真相なのです。
- 従って、地震源でズレ等が起きてから、地震が起きる迄には1～2週間必要。
- 地震メカが正しい根拠＝電磁波と地震動は同一起源なので相似模様なのです。

# ここで、間違いを正す提唱を 地震の「震源の深さ推定」は、間違いです！

- 1 地下深くで、ズレ等の地震源が起きたとき、同時に発生した電磁気は直ちに地上迄伝わって（絶縁体があっても交流の電磁界となら、簡単に通る）、地震の軋轢が発生した事が、異常通りの電磁波となつて、ノイズ等で観測できています。
- 2 ところが、ズレ等で圧力Powerが起きた時、電磁波が観測されても、その衝撃や振動は殆ど地表で観測されません。この理由は、地下深層での強力な圧迫を撥ね除け、周囲の岩盤を破壊しながら、亀裂や断層を作り地層を揺らすほどの、強力な軋轢は起き、周囲の岩盤を破壊し地震動を起すPowerが無いからでしょう。
- 3 しかし、地下深くで起きた地震源のズレ等のパワーは、圧力差が大きい程、隣から隣へと、押し競饅頭式で周辺に伝わって行きます。この圧力差は、拡散や伝導ロスがあるものの、1日に数kmと言う速度で確実に伝わる事ができます。
- 4 この深層で圧縮されたズレパワーは、波状の塊模様で伝達し、上層に近付くと、周辺の地圧減によって、圧縮Power塊が膨張を始め、表層になると、周辺地圧が無くなるため、数メートルも膨張し、周囲の岩盤を破壊、地震揺動を起して断層等を作ります。
- 5 これが、地震動のメカニズムです。従って、現在の震源の深さは、経験則から推測した計算結果であり、実際に確認されたものではありません。従って、本当の地震動は、圧縮された波動塊が地表近くで膨張し、周囲岩盤を破壊して起こしたもののなのです。

# 決定的根拠と電磁観測の将来

- 電磁波観測で異常が観測されてから判った決定的な証拠と根拠
  - (1) 地震の回数、時期、大きさ等が電磁観測の通りであること。
  - (2) 地震の場所は、観測網でのクロスチェック通りであること。
  - (3) 電磁波の異常模様は、地震(地殻変動の動き)と同様であること。
- 電磁波観測網のデータ解析と統合すれば、新予報図ができる根拠
  - (1) 地震の3要素、地震の起因(正逆断層や横ずれ)と揺れが判る。
  - (2) 地震がいつ起きるか? 前後震の回数、余震等の発生状況も判る。
  - (3) 観測網があれば、地震模様が解析でき、地震の震動図が作れる。
- 現在の天気予報模様に大地の動揺予報が発表でき生活に活用できる。
- 地象全体が判るので、大きな地震・噴火での避難がスムーズになる。

# それでも「信じ難い」と言う方へ

## この計画で、数十万人が助かるか、否かの選択だ！

- 良く説明しても、判って貰えない方がいます。確かに個人的な考えや偏見なら構わないのですが、公的立場で判断を迫られる時は、その裁量権の範囲で、多くの人の命まで左右しています。
- 確かに、私の技術開発は、理論やメカニズムも正しいと主張していますが、最新の先端技術なので、実際に多くの命を救って、証明しないと「信じ難い」とし、落選扱いでは、多くの命を助ける手立てが無くなります。従って、この取捨選択は、近い将来が安全になるか？又は、多くの死傷者が出るか？の選択であり、間違った場合は、訴訟で受けて立つ覚悟が必要になるのです。（伊で大量訴訟有り）
- 結論 提案した計画やデータを良く吟味して戴き、誰もできなかった予報で、安全に避難できた方々を想像して判断願います。

# 良く判る地震動と電磁波の観測方法 電磁波の出方と前兆データを公開！

- (1)電磁波での地震前兆観測は当たり前のことです。
  - (2)拠点観測は、上空、水平方向、アースの3方向を観測
  - (3)（上空）は広域観測で電磁波のコンディションを調べる。
  - (4)（水平）はFM放送波主で、全地域の電波伝播状況を調べる。
  - (5)（アース）は地下からの電磁波を観測し3要素を計算する。
  - (6)観測網での観測データと解析方法は特殊なスペアナを利用
  - (7)アース電磁波の観測網データからの解析方法
  - (8)地震電磁波は地下の状態把握（地殻動観測）に最適です。
- 以上で納得戴けましたか？これからは、電磁観測が主流です。**